

研究結果報告書

外来語の学習指導に対する台湾の大学日本語教師のビリーフに関する研究

所属：中華大学 応用日本語学科
役職：助理教授
氏名：魏 志珍

研究結果：

本研究は、台湾の大学で日本語を教えている日本語教師が外来語指導に対してどのような意識、態度、考えといったビリーフを持っているかを調査し、ネイティブとノンネイティブの日本語教師の違いを明らかにすることを目的とした。研究方法としては、日本語教師に対して、外来語学習についての困難度、重要性、自律性、英語知識の貢献、指導の5領域にわたる55問で構成された質問紙による調査を実施した。各質問項目に対して、「強く思う（5点）」から「全く思わない（1点）」までの5件法で回答を求め、分析は5段階尺度の配点に沿って得点化してから行った。

その結果、台湾人教師と日本人教師の間には相違点よりも、共通点のほうが多いことが特徴的であった。両者の共通点は、(1) 困難度に関しては、全体的にやや難しく感じているが、他の語彙より発音や暗記が特に難しいとは思わない傾向が見られた。(2) 重要性に関しては、全体的に日本語としての外来語の重要性を認識している。(3) 自律性に関しては、学習者の自律的学習が重要であると思っているが、教師による指導も必要であると思っている。(4) 英語知識の貢献に関しては、両群ともに英語の語彙知識が外来語学習に役立つと思っている。(5) 指導に関しては、全体的に授業で取り上げる必要があると思っており、特に基本的な表記ルールを指導する必要性が高いことを認識している。また、相違点としては、台湾人教師の場合、長い表記の書字や単語の暗記に比較的困難を感じており、外来語を理解して使用したいという意欲が比較的強かった。一方、日本人教師の場合、外来語が語彙の中で最も覚えにくいものではないと比較的強く思っており、辞書の不掲載語が多いことが学習者の自習を難しくしていると思っており、さらに外来語の意味が英語と似ていると比較的強く思っている傾向が見られた。こうした相違点から、両群は学習者に対して外来語を指導する際、それぞれ焦点をあてる部分が多少異なる可能性が示された。

研究成果の公表について

口頭発表 （題名・発表者名・会議名・日時・場所等）

1. 「台湾の日本語教師と日本語学習者の外来語学習に対するビリーフの比較」・魏志珍・中国語話者のための日本語教育研究会 第36回・2016年7月23日・京都教育大学（日本・京都）
2. 「外来語の学習と指導に対する日本語教師のビリーフ—台湾の大学日本語教師を対象に—」・魏志珍・2016年度台湾日本語文学国際学術検討会・2016年12月17日・輔仁大学（台湾・台北）

論文 （題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等）

（投稿中） 「台湾の日本語教師と学習者の外来語学習に対するビリーフ」・魏志珍・『日本語日本文学』・2017年7月

書籍 （題名・著者名・出版社・発行時期等）